

海外視察ツアー第5弾「タイ・バンコク及びチェンマイ5日間」報告

海外研修委員長 柿崎 賢一（4期電気）

報告者：吉岡 望大（55期電気）

訪問先 タイ・バンコク及びチェンマイ

期間 9月16日～9月20日

今年も海外研修を実施することができ、委員長として大変な達成感を感じています。参加して頂いた同窓生の方に改めてお礼を言いたいと思います。安全が担保でき、滞在期間、費用、訪問先、観光地の有無などを考え決定するまでが大変です。学生諸君は世界を知る第一歩、先輩との交流のきっかけとして、長老方は若さのチェックの機会、ブチクラス会として、次回も是非参加をして頂きたいです。（委員長）

今回、三重大学工学部同窓会主催の最新IT事情視察ツアー第5弾が、9月16日～9月20日で開催されました。

私は、工学部同窓会の援助をいただいて、今回のツアーに参加することができました。

まず、同窓会の皆様に感謝を述べさせていただきます。このような貴重な経験をさせていただいきありがとうございました。

メンバーは三重大学工学部同窓会員が主で、添乗員さんが1人の計14人で、訪問先はタイのバンコク及びチェンマイでした。

三重大学工学部の現役生である私には、工学部の諸先輩方との海外視察は自分の体験や思想にとっても刺激的であり、かつ新たな視点や交流を与えていただけたと感じています。よって、それを今回のツアーの体験をもとに報告させていただきます。

一日目は中部国際空港からタイのスワンナプーム国際空港へ向い、乗り換えてチェンマイ空港へ到着しました。一日目はほとんどの多くが移動の時間となってしまいましたが、それでも新しい経験を得ることができました。

まず、初めての国際線で入国カードがデジタルとなっており、事前にパスポート番号や宿泊先、個人情報などを記入しておくことができるようになっていました。このように、デジタルに置き換えることにより効率化、時短化などを行っていることが理解でき、また、顔認証のカメラや指紋登録などもあり機器を用いた効率化、セキュリティ強化などがなされておりタイはかなりのデジタル先進国なのではないかと驚きました。

空港からバスでホテルまで移動し、とても美味しい夕食をいただきました。

二日目は、まずチェンマイ市内を視察し、プラシン寺院、チェルディアン寺院などを訪れました。ガイドさんの説明を聞きチェンマイの歴史、寺院についての様々な知見を深めることができました。

次に、チェンマイ大学を訪問し、表敬ミーティングや校内視察をさせていただきました。チェンマイ大学の職員さんや通訳のミッキーさんにより、チェンマイ大学を隅々まで説明してもらいました。チェンマイ大学はかなりの広さを持ち、校内を視察するだけでもかなりの

時間を要し、道中は同窓会員の質問が飛び交い、それに対して丁寧に説明をしていただいたのでチェンマイ大学についてかなり多くのことを知ることができました。

チェンマイ大学ではそれぞれの学部ごとに図書館があり、24時間勉強できるようになっていることや、工学部だけでも約2000人ほどの学生がいることなど。チェンマイ大学は学生に寄り添った施設運営や、活動を行っていることがわかり、チェンマイ大学の素晴らしさを知ることができました。



三日目は、チェンマイ空港からバンコクに移動し、住友電装、タイ現地法人SEWS-COMPONENTS様に訪問、工場見学をしました。

ここでもかなりの驚きがあり、いろいろな交流を深めることができました。まず、住友電装様の歴史や会社について説明、工場を見学をしました。

「日本と海外の工場の違いはなんですか」と質問すると、「賃金の安さ、お客様の近くで製品を製造することができる」などがあるという回答ありました。また、タイの現地の方と日本人と同じように工場で働くということで、様々なことを教えることができ、ラジオ体操などを行っているということを知りました。

私は工場を見学して、工場は日本の工場と類似している点が多いことがわかりました。逆に、日本で行っていることを同じように海外の工場でおこなうことは、かなり凄いことなのではないかと気が付き、住友電装、タイ現地法人SEWS-COMPONENTS様の工場の運営技術は素晴らしいと感じました。



四日目はバンコク市内のワット・アルン、午後にアユタヤ遺跡に見学しました。双方とも細かい建築技巧や歴史的背景により荘厳な威厳、迫力があり、特にエメラルド寺院では、中国からの文化の伝来や風土の文化の融合などが、建築物から感じ取ることができました。



5日目にはバンコク、スワンナプーム空港から中部国際空港へと帰路につきました。

今回のツアーにおいて私は二つの物を得ることができました。

一つ目は、素晴らしい工学部同窓会の諸先輩方との交流です。とても、興味深い話や経験を聞かせていただいて、様々な視点を持つことができるようになったと感じます。

二つ目が、タイの文化の知識です。これは、今回のツアーによる視察や食文化、人との交流によりタイについての様々な知識を得ることによって広い知見を得ることができました。

これらの今回得たものを糧にして、日本だけでなくグローバルな視点を持ち、今後工学部生として努力していきたいと思います。（吉岡）

